

サイアフ
SIAF ラボ通信(仮)

※SIAFは札幌国際芸術祭
の略称です (Sapporo International Art Festival)

SIAFラボ編集
第1号

SIAFプロジェクトルーム→

**SIAF
LAB.**

SIAFプロジェクトルーム→ 2F

SIAFラボ関連イベントに
使用されるスペース

←SIAFラウンジ

珈琲の香り漂う交流スペース
関連書籍のライブラリや
イベント情報などをそろえる。
フリーWiFi、持ち込み飲食もOK!

SIAFラボってなに？

2015 年春、大通西 13 丁目札幌市資料館に芸術祭の
ための拠点「SIAF ラウンジ」と「SIAF プロジェクトルーム」
がオープン。この 2 つを拠点とするプロジェクト「SIAF ラボ」
が立ち上がった。札幌らしい芸術祭を創造するため、市民が
札幌らしさを考え、発見、発信していくためのプロジェクトと
なれる「SIAF ラボ」とは何だろうか。編集部的に考えた。

— 例えるなら、先生のいない学校、つまりダンスホールかな。

ダンスホールかな。

札幌らしさって何だろう。芸術ってそもそも何だろう。札幌らしい芸術祭って何だろう。そしてSIAFラボって何だろう。そこにはもしかすると、いや、たぶん答えは無い。先生やGoogleが正解を知っていて、赤ペンでチェックをしてくれたら楽なのだけど、そんな勉強つまらない。そう、例えるならSIAFラボは先生のいない学校？教科書を捨てよう街へ出よう。ここはどんな疑問が生まれても自由！「これって何のためにやってるんですか？」なんて質問は日常茶飯事。飛び交うクエスチョンマークは誰も止められない。そこはもう、シナプスが手に手をとって踊るような…。それならSIAFラボはダンスホールかな。そんなイメージどう？楽しくなければ学びじゃない。全ての学びは出会いから。SIAFラボでLet's Dance!

これは編集部からの一意見です。いやいや、もつと違う何かだ、それなら一丁踊ってみたい、などなどお考えの方は、ぜひ「ラボの日」編集会議へ！

SIAF
LAB

3. 今後のスケジュール

11/28 (土) SAPPORO STUDY(3) 札幌の「四季」

各回 15:00～ ()内は開催回

各イベントは2週間前からの申し込み制です

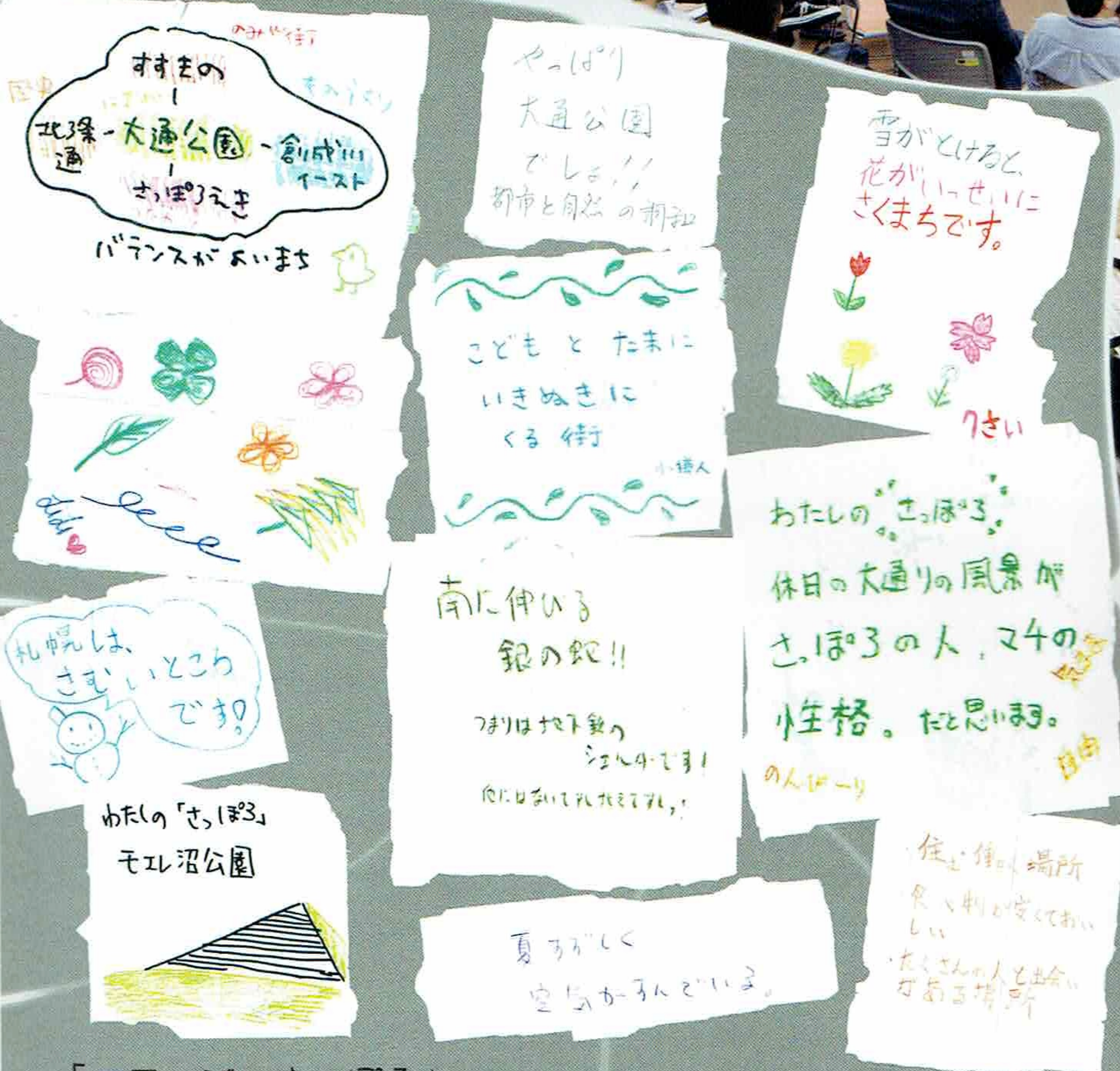
WEB サイト : sapporo-internationalartfestival.jp/siaflab

TEL 011-252-9360 SIAF ラウンジ (9:00~19:00 月曜定休)

レポート SIAFが2017年へ向けて歩み始めました。
パブリックミーティング

SIAF が 2017 年へ向けて歩み始めました。

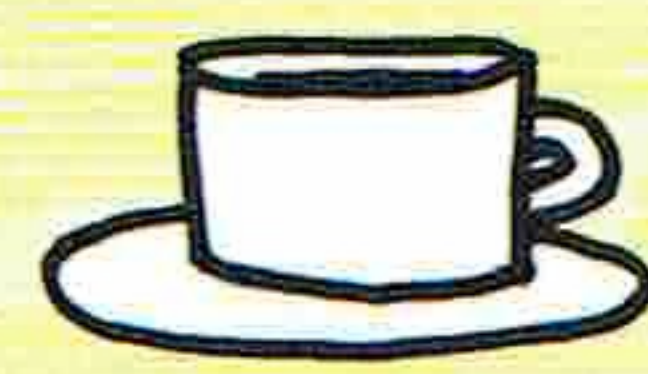
7月4日、5日の2日間、SIAF ラボのキックオフイベントとなる「SIAF パブリックミーティング」が開催されました。全6つのプログラムが組み、自動水やりマシンを制作するワークショップや、札幌中のチラシを集めて分類してみるチラシワークショップ、専門家による事業評価の報告会やシンポジウムなどが行われました。シンポジウムのタイトルは「これからの SIAF へ向けて」。いよいよ SIAF が 2017 年へ向けて歩み始めました。「あなたにとっての札幌らしさ」をつづるワークショップ“コラージュさっぽろ”では秋元市長が筆をとる場面も。市長の回答はズバリ「大通公園」。札幌らしさという普段は漠然としたイメージも、改めて言葉に出してみると、そこに意外な発見があるかもしれません。



「コラージュさっぽろ」パブリックミーティングで開催されたワークショップより抜粋

ラボの日、カフェ、イベント、レクチャーなど様々なことがおこるSIAFラウンジ。そんな何かが起きる日常をクローズアップしてお届けします。

！ ？ 挽きたての豆をハンドドリップでお入れします。
＼カフェ／ 手作りスコーン（自家製季節のジャム付き）もあります！
火曜 - 日曜 / 9:00 - 18:30 (LO) / 1階 SIAF ラウンジ



< 特別版：地元で活動するアーティストを招いて行うラウンジトーク！ >

ベルリンと札幌を拠点に世界を放浪する作曲家、ピアノパフォーマー。

福田はじめさん

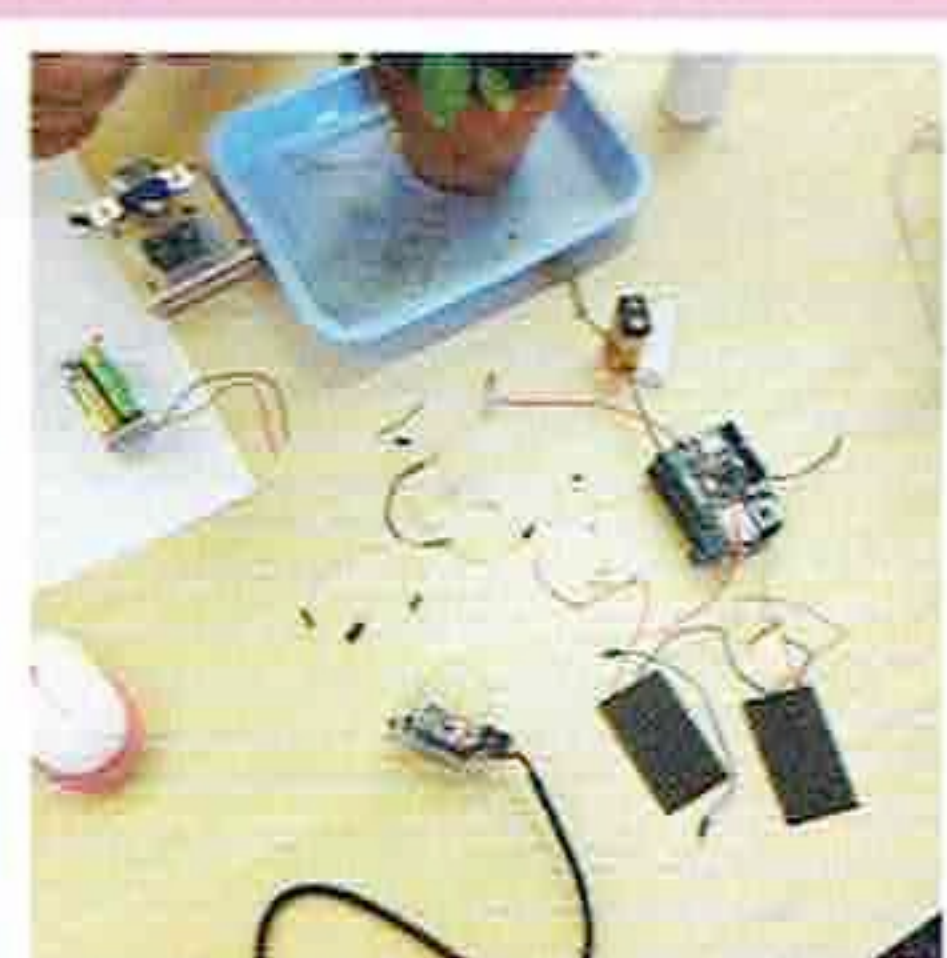
「感覚で捕らえていました。」

ースタートは、北海道を中三の時に一周したんです。そしたら釧路湿原がとても美しかった。あまりに美しかったので、この景色の美しさをどうしたら残すことが出来るのかと考えました。懐かしの「写ルンです」というインスタントカメラを使い、カシャッと撮ってみました。なんだこのむなしさ、なんかしっくりこない。この美しさと自分をつなぎ止めておきたいと思って絵を描いてみたんですが、まるで切り取れてない。その次に、音楽ってどうかな？とひらめきました。家にピアノがありましたので、僕は指一本でアニメソングを弾くぐらいのレベルだったんです。やったことないからなんとかならんんじゃないかなって、「むしろ可能性がそこにある！！」と言い聞かせてラジカセ2台使って多重録音しました。それが初めての作品ですね。この感じだになっていうのを感覚で捕らえていました。理論より感覚に素直に従って音にすることが出来たおかげで、僕も音楽に目覚めました。その経験が今でも生きています

「強度が大切」

ー限られた創作時間の中でどれだけ作品の強度を上げていけるかを大事にしています。「一人でも多くの人に届けたかった。」「みんなが楽しめる作品を作りたいかった。」という人が多いですが、それって本当に自分が作りたい作品？誰に向けているの？って思うんです。なんとなく美しい、なんとなく楽しめる作品を作る人が多過ぎる気がします。これを作りたいかった！こんな人に届けたい！っていう意思があって欲しいと僕は思っちゃう。僕の場合は「アンゼラム・キーファーがOK出すかな？」って設定が多いです。憧れのクリエイターと空想コラボしちゃうんです（笑）例えば打ち合わせの時に作品は誰に向けてますか？と質問して「子供たち」、作品のコンセプトは何ですか？と尋ねて「みんなが泣ける曲」と言われると、それはどんな「子供たち」や「みんな」なんだろう、と思ってしまいます。性別、国籍、性格。究極に絞り込んでいったほうが結局多くの人に伝わると思います。「いつ誰が何を思って泣けてしまう」とたくさんの空想設定をして、仕上がりのイメージを強めていきます。「空想コラボ」や「空想設定」の在り方が作品の強度に大きく関わっています。

他の『らぼの日』
いろんなことをしています！



スコーン再生キョコバー？

水やりロボのプログラミング？

シゲキランランド報告会？



福田はじめさん
HP: <http://hajime-soultravel.com/info/index>
最新ライブ情報掲載しています。

ざっくばらんに始まるラウンジトーク。福田さんがどのように作曲家になっていったのかまた、どんな風に作品を作り上げていくのか、などなど他のアーティストにも参加していただき笑いあり、驚きありの熱い！トークになりました。

ここでは収めきれないエピソードなどまだまだありますがここまで。またいつか、次の機会に。福田さんに会ったら直接、聞いてみてください！

新潟、越後妻有で今年7月～9月に行われた「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」。実際に現地を訪れた鈴木萌さん（札幌市在住）にインタビューしました。今回は1泊2日（実質1日！）の弾丸バスツアーで、初めての参戦とのこと。

ー 芸術祭に行ってみて、ズバリ一言で、どんな印象でしたか？

なんかもう本当に、第一印象は、「お米」なんです。棚田と、その場所が持つエネルギーみたいなものと、作品。パッと見、「これ作品だ」「あ、見つけた」という感じなんですけど、ぼーっと見てると、本当にその場所にもともとあったんじゃないのかなと思える。馴染んじやってるんですよ。

ー なるほど。ちなみに今回観た作品は、屋内の作品と野外の作品、どちらが多かったのでしょうか。

屋内かな。やっぱり野外の作品はひとつが大きかったり、ポツンポツンと置いてある感じなので。廃校などを会場にしている作品は教室ごとの展示なので、（一度に）沢山観られる。でもやっぱり、「大地に根ざしているな」というのは、野外の作品でした。

ー 印象に残っている作品はありますか？

私、ある作品の前で泣いちゃったんです。越後妻有の地区のなかでも端の端にある小さい集落で、じっちゃんばっちゃんが数人住んでいるような場所。そこに海外のアーティストが入って、思い出や記憶を聞き出して。作品の前に立ったら、ちょっと目頭が熱くなって。今は全然誰もいない場所なのに、こんなに人がいて、生きていた時間があつたんだなあと思うと、じわーっときて。ほろりと泣いてしまいました。

※作品：ナウイン・ラウンチャイクン「赤倉の学堂」



ー ほろり・・・（涙）。ところで、訪問中にハプニングなどはありましたか？

移動している途中、反対側から来た対向車のおばあちゃんが、大きなバスを見てびっくりして、横の溝に落ちちゃった。一旦バスを止めて、全員でソロソロ外に出て救い出しました。その後も2、3台車が来て、みんな止まって出てきてくれた。なんか、いいなこの地元感、助け合い。こういうのも醍醐味だな、と思いました。

ー 何ともほっこりするエピソードですね。他に、地元の方と接する機会があったのでしょうか。

各会場の受付などにボランティアさんが居たので、少しお話をしました。本当に、おもてなしをする人たち、という感じでした。やわらかいんですね。「これはこういう作品なんです！」ではなくて、どちらかというと「この場所はね、こういう場所ですね」というところからお話してくれる。

ー それは素敵ですね。芸術祭には、作品を観る楽しさと、その土地を知る楽しさ、その両方があるそうですね。萌さん、どうもありがとうございました！

【information】（詳しくはこちら！）
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015」
HP <http://www.echigo-tsumari.jp/>